

新

令和元年度 愛知教育大学附属岡崎中学校

読書だより

先週も入った。手紙や「字のないはがき」も、あこまな本でした。

モリモリ書店

第18話 R01.06.17(月)

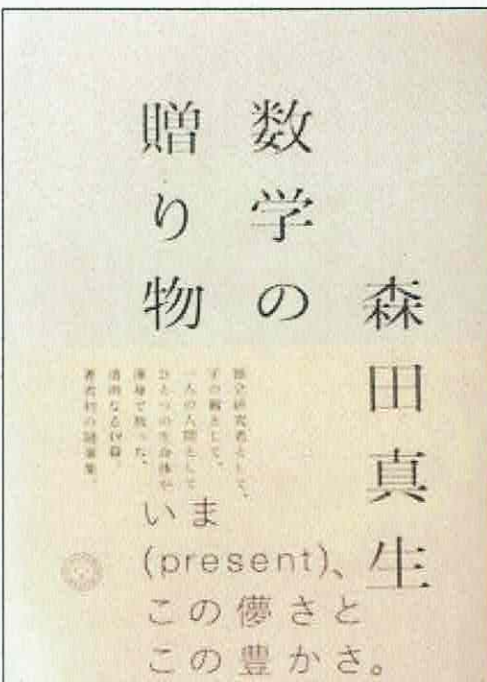
「言葉は、未来へのいとぐちとなる。」

★今回、紹介する本は、『数学の贈り物』（著/森田真生、出版/ミシマ社）です。

「独立研究者」という不思議な肩書きをもち、国内外で、「数学ブックトーク」や「数学の演奏会」を行う数学者である森田さんのすてきなエッセイ。

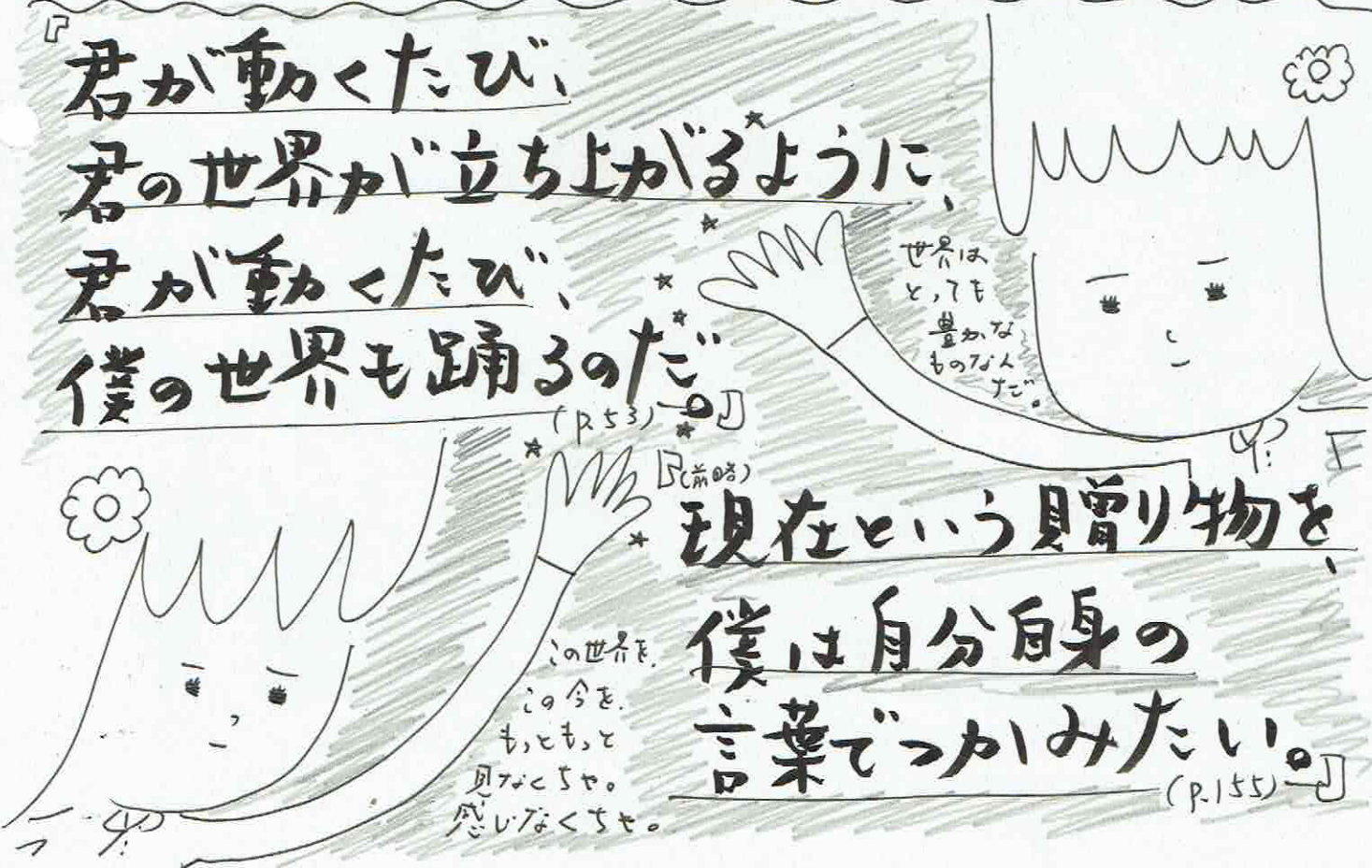
確かに中学生が読むには難しい部分はある本ですが決して小難しい数学の話ではありません。私たちの目の前に広がる世界はどのようなものか、私たちの生きる今や未来をどう見るべきなのか。私たちにそっと語りかけてくれる哲学的な本でもあります。

ソクラテスやプラトン、孟子、ユークリッド、松尾芭蕉、マイケル・ジョーダン、アインシュタイン、森鷗外など、普通なら同じ本には載らないような名だたる方の言葉を引用しながら、「今」のかけがえのなさを伝えてくれているのも特徴。また、生まれてすぐに手術になった息子とのエピソードもぐっと胸に迫ります。世界を新しい見方で見られる1冊です！



先週の入りに入りました。ミシマ社もすてきな本です。

君が動いたたび、
君の世界が立ち上がるように、
君が動いたたび、
僕の世界も踊るのだ。



現在という贈り物を、
僕は自分自身の
言葉でつかみたい。